

授業のタイトル（科目名）		授業の種類		授業担当者		当該科目に関する実務経験	
保育内容（健康）		（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		柳田 真理子		保育士	
授業の回数		時間数（単位数）		幼稚園教諭専攻科		必修・選択	
12回		24時間（2単位）		前期		必修	
<p>[授業の目的・ねらい及び概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」のねらいと内容について理解、習得することで、幼児期の発育・発達を理解し、子どもが自ら健康や安全、衛生について意識を持ち行動できるよう育てていく必要性を理解する。 ・ 子どもが生涯、健康に安全に生きる力の基盤を培うことができるような支援を行うことができる保育者を目指す。 							
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・健康概念に関する理解～子どもにとって望ましい「健康」とは、どのような状態かを理解する 2・領域「健康」にねらいと内容～幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されるねらいと内容を理解し、乳幼児の「健康な心身の発達」を支える保育者としての保育観を培う。 3・心身の発達について（1）～スキヤモンの成長曲線を学び、特にリンパ型と神経型は幼児期の心身の発達に関連深いことを理解し、適切な援助を考察する 4・心身の発達について（2）～乳幼児期の子どもの身体のが対句や身体機能の発達、心身の発育特性を踏まえ、発達段階を理解する。各発達段階に応じた関わり方や配慮、留意点を学ぶ 5・基本的生活習慣の形成について（1）～基本的生活習慣とは何か、その形の必要性について理解する。集団生活での援助や指導についての配慮と留意点を考察する。 6・基本的生活習慣の形成について（2）～食習慣や食文化を育む「食育」の重要性を幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から理解する。具体的事例を用い、乳幼児期における援助や指導の際の配慮と留意点を学ぶ。近年、家庭での食に関わる課題や問題点についても考察する。 7・基本的生活習慣の形成について（3）～子どもにとって、適切な睡眠の習慣形成が重要であることを理解するとともに、現代における子ども達の睡眠事情のモデルを検討し、保育者の家庭との連携や保護者指導（支援）の必要性にも着眼し学ぶ。 8・基本的生活習慣の形成について（4）～排泄・身の回りの清潔・衣服の着脱等の習慣化の意義を理解し、子どもの自立を促す援助・指導について考察する。基本的生活習慣は学童期にも継続することを理解し、家庭との連携が重要であることを理解する。 9・遊びと健康について（1）～乳幼児期の子どもにとっての「遊び」の重要性を理解する。遊びによって育まれるものを身体的側面、精神的側面、社会的側面から考察する。遊びに関わる保育者の資質と役割についても理解を深める。 10・遊びと健康について（2）～子どもを取り巻く生活環境の変化による遊びの現状を理解すると共に、子どもの健康に関する諸問題（学童期の体力、運動能力低下・健康阻害など）も把握し、保育において行うことができる方策を考察する。 11・遊びと健康について（3）～子どもの健康に資する「運動遊び」とは何かを理解し、発達段階別に具体的な運動遊びを考察する。実践を想定した援助・指導の際の配慮や留意点を学ぶ。 12・健康と安全について～乳幼児期の事故事例を検討することで事故を未然に防止する観点（危機管理）を学ぶと同時に、園における事故防止の取り組み（危機管理体制）事故発生時の対応についても理解を深める。 							

[授業テキスト]

- ・「乳幼児の健康」大学図書出版

[参考文献]

- ・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
- ・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省・日本保育協会）

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点 (75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点 (25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。